2018年度（平成30年度）特定入居者施設　事業報告

**処遇関係**

入居者の高齢化は進み、ご利用者の認知症の進行、ADLの低下が多く見られた。退所者は7名おられ、そのうち４名はケアハウスの方で他エアハウスに転居１名、一般住宅に転居３名の退所。残り３名は特定の方で特養に移られた方２名、自宅に戻られた方１名。

＜取り組みとして＞

１、個別ケアの充実

　　・食事、入浴、排泄ケアに重点を置き、個々の状況に応じたケアを提供する。一人一人がそれぞれ快適に日々の生活を送れるように支援する。

　　・食事…誤嚥やむせこみ、食事量の低下など、リスクのある方には食事形態の変更、補助食品や補助具の導入を行う。

　　・排泄…プライドを傷つけないよう適切な支援を心がけ、快適な排泄が出来るよう支援する。

　　・入浴…無理なく、気持ちよく入浴していただける様支援。季節感を感じていただけるよう配慮。全身状態の把握に努め、けがや病気の早期発見に役立てる。

【報告1】

◎今年度は重度化された方が多く、お一人は看取りの時点で特養に移られた方、もう一人は入院が長引き、ＡＤＬ低下の為退所し特養のショートステイから利用していただいた方だった。

◎入院者も多く、入院後一時的にせん妄や興奮など認知症状が現れたが、ケアハウスに戻り、安定した生活を取り戻している方が多かった。環境の大切さを感じた年だった。

◎排泄に関しては、プライドのある方々なので、一応の声掛けでは簡単には応じていただけない。時間をずらす、人を変える、気を紛らわす、時には見守るなどして清潔を保つようケアしてきた。

◎リフト浴は入居者にとっても、職員にとっても、安全で楽に、快適に利用していただいている。今年度は特に入院によるＡＤＬ低下から利用者が多くなった。

２、環境の整備

　　・清潔な環境、安全で過ごしやすい環境作りを目指す。また、食物の管理にも気を配り、食中毒や感染症の予防に努める。

　　・布団乾燥機を用いたり、リネンの清潔を保つ。

【報告2】

◎毎週土曜日にリネン交換、平日午前中に居室清掃、第三水曜日には2階の手すり消毒を行い、清潔な環境作りに努めている。清掃職員の不退職、介護職の退職などで厳しい現状となったができる限りの努力をした。

◎食品の管理に関しては、冷蔵庫に買い置きした古いものが溜まっていたり、果物の食べすぎで体調を崩したりと、危険が多いので特に配慮した。

◎感染症予防のために、環境の消毒に関しては徹底して行った。それによって感染症はなかった。

３、日中活動(レクリエーション)の充実

　　・リハビリが必要なご利用者には、療法士の指示のもとナースと共同して、機能訓練を実施する。

　　・クラブ活動とは別に、ミニデイ（塗り絵、トランプ、折り紙、歌、ドリル）を行い楽しむ。

　　・キッチンを利用して手作りおやつを計画する。

　　・楽しみを提供するとともに、特定施設入居者だけでなく、ケアハウスの入居者とも交流できる場になるよう声掛け、雰囲気づくりに努める。

【報告３】

◎平日の午後、看護師が行っていた集団リハビリは、後半には人手不足で実施できなくなってしまった。

◎リハビリ・マッサージ教室を指導して下さっている先生が、医療保険を使ってマッサージが必要な方に診療を実施されている。それによって、痛みが軽減している方、歩行が楽になった方などいらっしゃる。

◎施設内の散歩は行っているが、長距離の移動が難しく外に出ることが出来ない方には、職員が付き添いぶどうの木まで歩いてからコーヒーを楽しんだり、他の方も散歩しながらぶどうの木を楽しく利用させていただいた。

◎午前の集会やクラブ活動に参加されない方を集めて、少人数でゲームや歌、折り紙など行った。ケアハウスの方も参加して良い交流が持たれていた。

４、リスクマネジメント

・事故を未然に防ぐため事故報告・ヒヤリハット報告を活用し、さらに検証、対策を考え再発防止の意識を共有する。

・職員の腰痛予防に努める。腰痛ベルトの使用や理学療法士による指導を受け、腰を痛めない介助方法を学ぶ。

【報告４】

◎事故報告、ヒヤリハットを提出。これにより事故を未然に防ぐ意識付けができた。

　事故報告でやはり転倒事故が多かった。機能低下からくるもので同じ方の転倒が続いた。

　動ける方だから動いてしまう。でも、力尽きて転んでしまう。拘束することはできないがリスクは高い。大事故につながらないよう、見守りと環境整備（衝撃吸収マットの利用）を行った。また、ご家族には現状の理解を要請した。

◎園内研修ではリスクについて学ぶ班があり、誤薬を防ぐための検討を重ねた。それにより誤薬、薬の紛失が激減した。

◎看護師による腰痛検査の実施、特養の理学療法士による腰痛予防講座を実施した。

５、連携、スキルアップ

・職員同士コミュニケーションを大切にし、チームとしてお互いに協力しながらケアに望んでいく。

・他職種、行政、家族と連携をとりながら、ご利用者の生活を支えていく。

・外部での研修や園内研修をとおして、より専門的なケアを学び、全員にフィードバックし全体のスキルアップを目指す。

【報告５】

　　　◎今年度も職員の退職、異動などで入れ替わりがあり、新入職員の教育がうまくいかなかった。介護の仕方が同レベルまで行かず入居者にストレスを与えてしまったり、苦情や、拒否につながったケースもあり迷惑をかけてしまった。

　　　◎職員同士のコミュニケーションもうまくいっていなかったのかもしれない。

　　　◎外部研修には参加して、職員会議の席でフィードバックした。

【まとめ】

この１年は年度当初は看取り対象になる方や、入院によりケアハウスに戻れなくなる方が相次いだ。また、入院が多くなり、一時的にせん妄や興奮が続きケアハウスに戻れるか心配されたケースが多かった。しかし、ケアハウスに戻ると徐々に本来の姿を取り戻し、現在は安定して生活できている方が何人もいらっしゃる。環境の変化が大きく左右することを痛感した。

昨年度も人材不足に悩まされたが、今年度も入職しては退職、異動してきたが馴染めずに退職といったケースで人材不足は続いた。看護師が行っていた集団リハビリも途中からはできなくなった。そのような中でも、看護師、事務員全体で業務をカバーし、なんとか入居者にご迷惑をかけないように、行事を実施できるよう、楽しみを無くさないよう協力してこられた。

　　　また、今年は事故特に転倒事故が相次いだ。動けるから転倒する。動かさないわけにはいかない。職員間でも何度も検討したが特効策はなかった。家族を巻き込んで現状を理解していただき、できる対応策で誠意を見せた。家族との関係性の大切さも感じた。

　　　日々状況が変化しやすい高齢者の生活を、安定して安全に送れるように、今後も職員全体で

　　連携して望みたいと思います。